戸田市における乳幼児健診の事後指導

研究協力者　飯　島　昌　夫（戸田市立健康管理センター）
中　原　朗　子（　同　上　）

Ⅰ　職員の構成とその特色

当センターの母子保健担当の母子科職員は，医師（小児科）2，保健婦4（うち係長1），栄養士2，歯科衛生士2，心理担当1，看護士1，保健体育担当1の合計13人である。

センターの特色は，すべての母子保健の運営や実際の行政面で企画，立案，実施，反省，改良など自分たちの手で実行できることである。さらにセンター自身で小規模ながら小児科外来をもち検査や診療を行ない，ほゞ二次検診機関として機能を有していることである。従って健診後の管理や事後指導の問題はあまりなく，むしろ三次検診機関の不足をどうするかが問題となっている。

Ⅱ　各乳幼児健診の事後指導の実際

昭和55年1月より同年12月に至る1年間の3カ月健診，1才6カ月健診，3才児健診の際に，事後指導を必要とされたものの内わけは表に示すとおりである。なお，この数の中には健診の受診前から医療機関に受診して十分な日常生活上の指導を受けているものは除外した。また軽微なあざ，湿疹，臍ヘルニヤなど当日の1回の指導だけで十分と考えられるものゝ数も含んでいない。

Ⅲ　考　　察

乳幼児健診は3カ月と1才6カ月，3才の時点で実施されているが，3カ月と1才6カ月健診の間には6カ月児離乳食教室が，9カ月児にはグループ別の健康相談が該当児全員を対象に実施され，医師・保健婦・栄養士・歯科衛生士らの参加のもとに毎月実施されている。また1才6カ月と3才の間には参加希望者による幼児学級（遊びを通じて心と体の健康づくり），虫歯予防学級が夫々4～5回詳細なプログラムのもとに実施され効果を上げている。

なお健診を受診したすべての乳幼児は，センターのコンピューターに記憶され一貫して整理保存がなされている。

現在のように保健センターが全国各地に設立されつゝあるとき，また近い将来医師過剰時代の招来が予想されているとき－中心となる医師の確保と自治体の理解が得られるなら－当センターの如き母子保健行政のあり方は多くの長所をもち将来の1つのモデルとなりうると思われる。

以上のように健診で事後指導（要経過観察，要精密検査，要治療などの群をいう）とされたもののうち，身体疾患または疑いを有するものは医療機関（センター外来を含む）に検査または治療を依頼し，その結果を必らず後で確認するようにしている。

精神または行動発達面に問題のあるものや，保護者の養育態度に問題あるものに対しては大部分センターで長期間観察を行っている。それらの多くは翌月実施の定例健診に再受診させる，1～2カ月後に様子をきく（電話が多い），毎月1回実施されている二次健診を受診させるか又は月2回

実施している小児精神神経外来を受診させるようにしている。

最終的には身体疾患のうち眼科・耳鼻科疾患や手術を必要とするもの，また精神発達面では早期脳性麻痺の疑いなどを他医療施設へ診断または治療のため紹介依頼することが多い。

a）３カ月児健診における事後指導は，受診者８１４人中１２７人（１5.6％）であり，その内わけは表１の通りである。

b）１才６カ月健診における事後指導は受診児８０１人中９３人（１1.6％）で，身体面のもの２２人（2.7％），精神面のもの７１人（8.9％）で，その内訳は表２のｂの通りである。

c）３才児健診の事後指導は，受診児９５７人中１４０人（１4.6％）であり，その中身体面に関することは３２人（3.3％）に対し，精神面に関することは１０８人（１1.3％）に達した。

表１　３カ月健診の１年間の要事後指導数

分類	内科			皮膚		外科（形態）									眼耳鼻						神経		その他					合計	保育上の問題
疾患名	黄疸	貧血？	心雑音	皮膚炎	湿疹	大泉門閉鎖	頭囲が大きい	斜頸	開排制限	そけいヘルニア	潜伏睾丸	包茎	O脚？	尖足？	結膜炎	睫毛皮反	涙鼻管狭	視力障害？	中耳炎	聴力障害	首のすわり	原始反射亢進	体重増加不良	肥満	持癇	がロ瘡	高度頭蓋癒		
人数	1	1	1	11	7	2	1	3	18	2	1	1	3	1	9	3	1	1		1	16	1	24	2	1	16	1	127	6

表２ａ　１才６カ月健診の１年間の事後指導数（身体面）

分類	内・外科								眼耳		歯科			合計
疾患名	ひきつけ	ッ反強陽転	川崎病	腹部膨満	大頭	斜頸	そけいヘルニア	O脚	視力障害	膿鼻汁	高度う歯	欠除歯	軟組織異常	
人数	5	1	1	1	1	1	4	1	1	1	3	1	1	22

表２ｂ　同　上（精神発達面）

分類	全体的な遅れ	ことばの遅れ	歩行の遅れ	断乳未完了	哺乳びん使用中	食事上の問題	夜泣き	異常習癖	合計	親の養育態度
人数	7	25	6	20	5	2	2	4	71	13

表3a　3才児健診の1年間の事後指導数（身体面）

分類	内・外科		眼耳鼻					神経	その他		歯	合計
疾患名	気管支炎	心奇形	関節異常	そけいヘルニア	斜頸	鼻出血	聴力障害	筋ジス疑い	けいれん	発育不良	肥満	高度う歯	
人数	2	1	1	1	1	1	5	1	1	2	3	8	32

視力障害?	緑内障	睫毛内反	斜視
1	1	1	1

表3b　同　上（精神発達面）

分類	精神発達遅滞	言語		習癖		生活習慣						合計	親の養育態度
		発達遅滞	発音不明瞭	どもり	性格行動異常	夜尿*	大小便自立	哺乳びん	断乳	偏食	宵っぱり		
人数	11	3	9	5	13	16	28	13	5	1	3	1	108	12

＊週4回以上または夜間おむつを着用のもの

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

1 職員の構成とその特色

当センターの母子保健担当の母子科職員は,医師(小児科)2,保健婦 4(うち係長 1),栄養士 2,歯科衛生士 2,心理担当 1,看護士 1,保健体育担当 1 の合計 13 人である。

センターの特色は,すべての母子保健の運営や実際の行政面で企画,立案,実施,反省,改良など自分たちの手で実行できることである。さらにセンター自身で小規模ながら小児科外来をもち検査や診療を行ない,ほゞ二次検診機関として機能を有していることである。従って健診後の管理や事後指導の問題はあまりなく,むしろ三次検診機関の不足をどうするかが問題となっている。